

## 平成 21 年度第 2 回 心理学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

I. 日時：平成 21 年 8 月 24 日(月) 午前 11 時から午後 1 時まで

II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者：木村裕委員長、今井芳昭副委員長、今井久登委員、大島尚委員、中澤清委員  
井端事務局長，森下，恩田

### IV. 検討事項

#### I 報告事項

参考資料 1～5 に基づき、日本学術会議・大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会・質保証枠組み検討分科会の案が紹介された。

#### II 審議事項

##### 1. 心理学領域における学士力

提出された宿題に基づいて該当委員に説明してもらい、それに基づいて検討した(資料①～③)。

##### ①委員の説明(資料①)

- ・ 3つの学士力ごとに、キー・ワード、関連授業科目、測定方法、備考の欄を設け、表形式でまとめてみた。
- ・ 学士力 2，3 は、ほぼ前回の議論に基づいた内容になっている。
- ・ 学士力 2，3 において、特に臨床心理学に力点を置いている大学で目指している教育内容は、資料①の表に記載されている内容とズレているかもしれない。臨床心理学的な観点をどのように入れるかの検討が必要かもしれない。
- ・ 学士力 1 については、いわゆる心理学の基礎的な知識に相当する部分だと考えられるので、認定心理士や心理学検定を参考にして、キー・ワードや関連授業科目を選定できると考えられる。

上記の説明に基づいて、以下のような意見が出された。

- ・ 学士力 2，3 において、特に臨床心理学領域を意識する必要はないと考えられる。例えば、事例研究は大学院レベル(専門家養成)で求められるものであり、大学レベル(教養人養成)においては、その教育内容について非臨床系の大学と大きい差があるわけではない。
- ・ 健康心理学は基礎的な科目であるが、医療心理学は必要ないと考えられる。
- ・ 将来的な社会の変容を考慮して、福祉心理学や医療心理学へも配慮しておいた方がよ

いかかもしれない。

- ・ 卒業論文が必修ではない大学もあるので、そうした場合の対応も考えておく必要がある。例えば、ゼミ論、卒業報告というようなものも可とする。

## ②委員の説明(資料②)

- ・ 学士力1, 2に挙げられている知識やスキルが前提となって、学士力3として応用が可能になると考えられるので、学士力3を中心に考えた。
- ・ 提出された卒業論文を評価する際に客観的な評価基準が必要である。
- ・ 例えば、評価のためのチェックシートの作成であり、それには以下のような項目を含めることができる。
  - a. それは、心理学領域の卒論であるか？
  - b. 心理学におけるどの領域を扱った卒論か？
    - 領域選定の必要性
    - 現行の授業科目に依存しない、テーマ指向的な分類
  - c. その心理学領域において必要なキー・ワードへの言及はあるか？
    - キー・ワード選定の必要性
  - d. その言及は正しい内容になっているか？
- ・ こうした評価基準を学生に明示できるようにすれば、現行のように教員によって差が生じてしまう評価方法をより客観化できると考えられる。

上記の説明に対して以下のような議論がなされた。

- ・ 人間の行動を科学的に分析できているかどうか、心理学領域における卒業論文のポイントであり、心理学の領域ごとに標準化を行うのは難しいのではないかと。
  - しかし、よい論文とわるい論文を判断する評価基準は必要であると考えられる。

## 2. 「教育学」分野における作業の紹介

- ・ 事務局から「教育学」における作業成果の紹介があった。
- ・ 教育学においては4つの学士力を設定し、それぞれに「コア・カリキュラムのイメージ」、「到達度」、到達度に対応した「測定方法」が検討されている。

それに対して、以下のような意見が出された。

- ・ 各学士力の到達度という考え方と最低基準としての学士力という考え方の関連性は？
- ・ 「測定方法」という表現とその内容との間にズレを感じる。また、記述されている測定を実施することの困難さを感じる。

→ 具体的な測定方法については、今後、検討していくことになっている。  
表記については、今後、検討の上、統一を図っていく予定である。

- ・ 心理学分野においても、「教育学」のアイデアに基づいて、学士力ごとにコア・カリキュラム、到達度、測定方法を検討していくことにした。
- ・ コア・カリキュラムについては、認定心理士の科目分類が参考になるが、既存の授業科目名ではなく、大きな分類で検討した方がよいかもしれない。
- ・ 学士力3については、特にコア・カリキュラムを対応させるのは難しく、「ゼミ、卒論指導」という形で関連科目を挙げておくことになるであろう。
- ・ 到達度については、例えば、各概念の必修度(重要度)に基づいてレベル分けできるだろう。

次回の委員会： 9月30日(水) 12:30-14:30

次回までの宿題： 「教育学」分野の検討結果を参考に、3つの学士力ごとにコア・カリキュラム、到達度、測定方法を(各委員の視点で)まとめたものを作成する。